

特別支援教育におけるパーソナルエデュケーションレコード（PER）のグランドデザイン構想

ICTツール「デジタル連絡帳アプリ」「学習特性アプリ」利活用事例

中川宣子* 中川あかり*2

京都教育大学附属特別支援学校* 京都女子大学大学院*2

<抄 録>

特別支援学校学習指導要領（平成 29 年 4 月）では、これまで以上に学校・家庭間での教育情報共有、連携強化して教育支援することが求められている。又、教育と福祉、教育と医療、教育と保健、教育と地域との連携強化も求められている。しかし現状は、児童生徒の教育支援情報に関してみると、個々の担当者レベルで止まっているケースが多く、各関係者間において情報共有されず、個々の情報管理で終わっている。そのため一貫した教育支援が実施されにくく個別対応の現状である。そこでこれらの問題を解決し、情報共有、連携強化を図るためのパーソナルエデュケーションレコード（Personal education Record：PER）のグランドデザイン構想を提案し、その一部である「デジタル連絡帳アプリ」「学習特性アプリ」2つの ICT ツールを利活用した教育支援連携システムの事例を紹介する。

<キーワード> パーソナルエデュケーションレコード（PER）、デジタル連絡帳アプリ、学習特性アプリ

1 はじめに

本研究では、特別支援教育が目指す児童生徒の自立と社会参画に向けた教育支援連携に対し、ICTを利活用して、学校・家庭・地域・福祉・医療間の情報共有、情報活用を促進し、保・幼から小・中・高・大学・卒業後に至るまでの縦断的・横断的な一貫した教育支援連携の実現を目的としている。

特別支援学校学習指導要領（平成30年3月）では、「個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ継続的に行う」ことや「個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成、活用に努める」こと等が示されており、これまでも教師・学校・家庭間で連携協力しながら、教育支援を行ってきた。

しかしながら、これらの取り組みで得られた児童生徒情報に関しては、個々の関係者に留まるケースが多く、そのため引継ぎでトラブルが生じたり、担当者は重複した内容の書類作成業務に追われたりといった問題を繰り返しており、未だ教育支援連携を支えるシステムが不十分であることが原因に挙げられる。

これらの現状を踏まえて、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（令和2年7月）」では、「V. 関係機関の連携強化による切れ目のない支援の充実」において、就学前からの連携体制の整備や在学中、卒業後の連携促進を、また「IV. ICT利活用等による特別支援教育の質の向上」においては、関係機関の連携とICTを活用した情報共有について触れられ、

連携支援体制やICTを活用した情報共有について、今後の課題が示された。

そこで、筆者がこれまでに考案した「デジタル連絡帳アプリ」と「学習特性アプリ」2つのICT利活用による教育支援連携実践のメリットを抽出し、これらの教育支援連携システムを考察することによって、今後の教育支援連携を強化するシステムとしての児童生徒視点に立ったパーソナルエデュケーションレコード（Personal Education Record：以下PERと表記する）のグランドデザイン構想について提案する。

2 PER とは何か

パーソナルエデュケーションレコード（PER）とは、児童生徒の自立と社会参画を目的として、学校・家庭・福祉・医療・保健・地域行政が中心となって、児童生徒の教育情報を一元管理、情報共有、情報活用して、教育支援連携を強化するシステムのことである。（図1）

児童生徒の教育情報とは、学校における授業の様子や個別指導計画、個別の教育支援計画、通知表、学習指導要録等だけでなく、家庭学習の様子や放課後等デイサービスでの様子、医療機関や福祉サービスの利用状況、地域との関わり等、児童生徒に関わる教育的活動情報全般を指す。

NAKAGAWA Noriko*, NAKAGAWA Akario*2: Collaboration between " Please write in the following way"

* Kyoto University of Education, 90 Fukakusa Fujinomori Oyama-cho Fushimi-ku Kyoto, 612-0847, Japan

*2 Kyoto Woman's University, 35 Imakumano Kitahiyoshi-cho Higashiyama-ku Kyoto, 605-8501, Japan

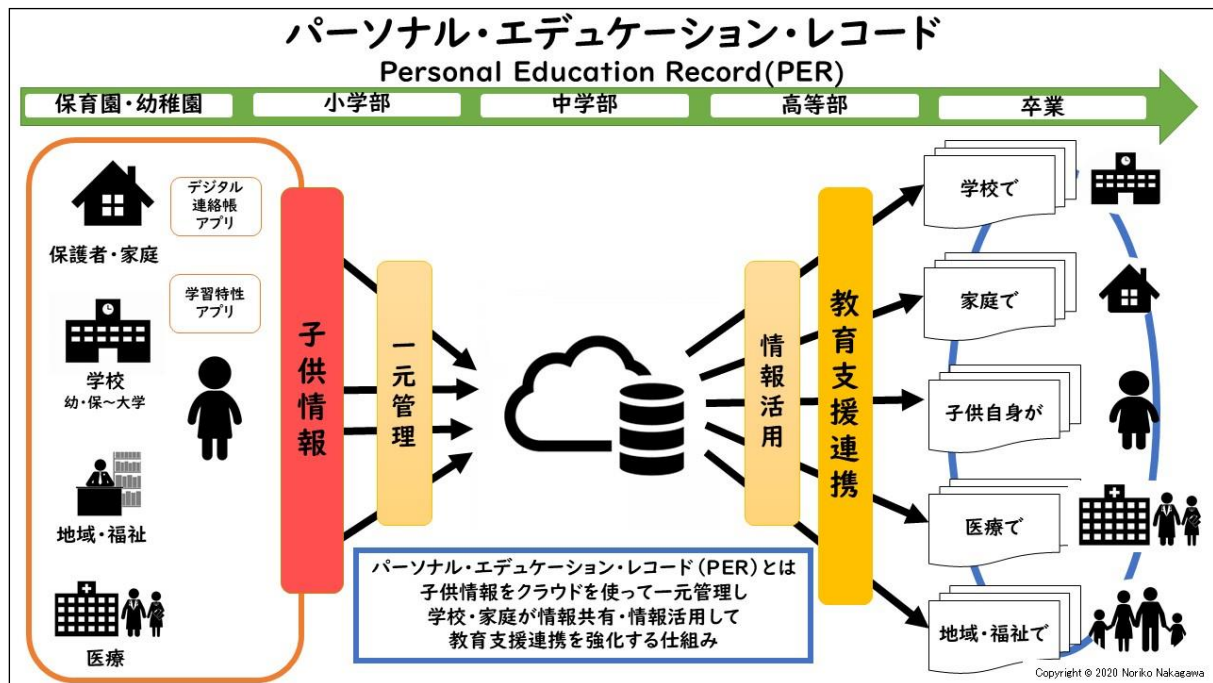


図1 パーソナルエデュケーションレコード グランドデザイン構想

3 PERによるメリット

これまでに、個別の指導計画や個別の教育支援計画、個別の支援計画等により、児童生徒の教育情報を学校や家庭が中心となって収集、保管、活用する取り組みがなされてきた。しかしながら、それぞれの情報は、各機関或いは各担当者が保有し、その保存媒体や保存形態等も様々であり、単なる児童生徒の教育情報を管理する仕組みに留まっていた。そのため引継ぎでトラブルが生じたり、担当者は重複した内容の書類作成業務に追われたりといった問題を繰り返し生じていた。一方 PER は、児童生徒に関わる教師・保護者がクラウドを通じて、教育機関に在籍する期間、保・幼・小・中・高・大にわたる切れ目のない児童生徒の教育情報を一元管理し、関与者が情報共有、情報活用した児童生徒視点に立つ教育支援連携システムである。これらの情報は、日常生活から進路選択まで広範囲な場面で有効に活用でき、児童生徒一人一人の自立に向けた個別最適な学びと社会と繋がる協働的な学びの実現、また教師や保護者による協働の教育支援活動を促進し、教育や支援の質と効率化を改善する強力なプラットフォームとして期待できる。

4 実践事例1「デジタル連絡帳アプリ」利活用による教育支援連携

(1) 「デジタル連絡帳アプリ」とは何か

「デジタル連絡帳アプリ」は、クラウドサービス (Web

データベース型業務アプリ構築クラウドサービス：サイボウズ㈱ kintone) を使った家庭と学校がリアルに繋がり、チームとして協働作用が誘発され、児童生徒の行動変容を促進する教育支援連携システムである (図2)。

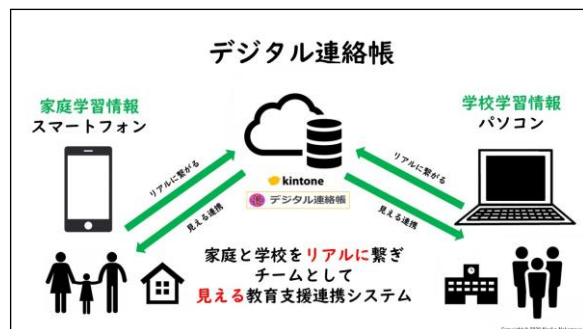


図2 デジタル連絡帳アプリ

(2) 「デジタル連絡帳アプリ」のメリット

「デジタル連絡帳アプリ」を利活用することで得られたメリットは、以下の11点である。

- ①保護者・学校・教師がリアルタイムに繋がり、必然的に教育支援連携システムの構築ができる。
- ②児童生徒の教育情報を共有でき、保護者・学校・教師による教育支援連携が見える化できる。
- ③学校・家庭間で、双方向の協働学習ができる。
- ④日々の児童生徒の学習情報を蓄積、一元管理できるため、個別最適な教育支援、個別の指導計画や個別

- の教育支援計画、授業計画等に有効活用できる。
- ⑤家庭内（父母、兄弟姉妹、祖父母）皆が情報共有でき、家族の絆が深まり支援連携の強化になる。
 - ⑥災害時、臨時休校時にも、情報共有が可能であり、健康・安全確認や問題への対処ができる。
 - ⑦学校内では、教師も管理職も共に児童生徒情報を共有でき、チーム学校としての体制が確立できる。
 - ⑧写真や動画を学習教材として活用することによって、児童生徒同士で興味関心を強め、コミュニケーション力を促進し、仲間意識や自己肯定感を高める。
 - ⑨児童生徒への視点が美点凝視に変わる。
 - ⑩児童生徒情報の質と量が向上し、保護者・教師・学校間の相互理解、信頼が高まる。
 - ⑪教師・保護者の教育支援情報が共有でき支援できる。

5 実践事例2「学習特性アプリ」利活用による教育支援連携

（1）「学習特性アプリ」とは何か

「学習特性アプリ」は、学習指導要領に基づく学習目標を達成するために、学習目標・その内容を具体的に分析・検討し、児童・生徒が学習過程で生じる行動特性を、学習特性項目・学習特性基準として設定し、学習特性評価を行い、児童・生徒の学習特性を表したものである。学習特性データに基づいた授業づくり、授業のPlan-Do-Check-Actionサイクルを展開することにより、学習の効率的・効果的成果を図ることができるアプリケーションである（図3）。

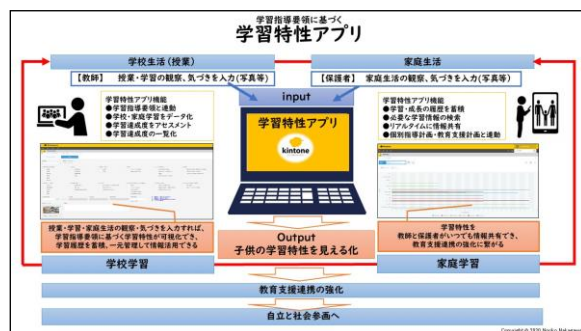


図3 学習指導要領に基づく学習特性アプリ

（2）「学習特性アプリ」のメリット

- 「学習特性アプリ」を利活用することで得られるメリットは、以下の5点である。
- ①学習の結果生じる児童生徒の行動変容を学習指導要領に照らして学習評価できる。
 - ②家庭学習と学校学習を一元管理できる。
 - ③学習・指導過程や学習達成度を蓄積し、「学習特性」として見える化できる。
 - ④学習特性データに基づいた授業のPDCAサイクルを展開することにより、児童生徒視点に立った授業実践

が展開できる。

- ⑤特別な教育課程の編成や、個別の指導計画、個別の教育支援計画と連動できる。

6 まとめ

今回、パーソナルエデュケーションレコード（PER）グランドデザイン構想について提案をしたが、考察として教育支援連携に関して述べたいと思う。

まず「デジタル連絡帳アプリ」を利活用することにより、学校・教師・家庭が繋がり必然的にチームとしての教育支援連携のシステムが構築できた。このことにより、学校内のチームプレイ及び家庭内の支援チームが誘発され、総合的教育支援連携が強化されたことは新たな発見であった。情報共有できることで、教師・保護者・家族の視点が変わり、チームとして学校・教師・家庭・児童生徒が変わる行動変容の姿を体験することができた（図4）。

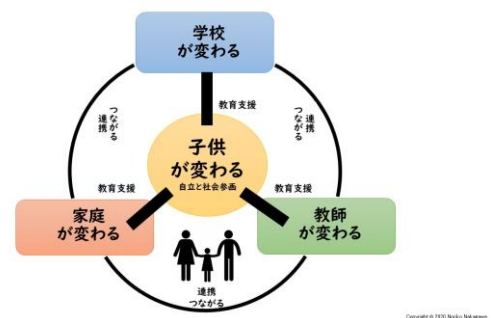


図4 チームとして学校・教師・家庭・児童生徒が変わる行動変容

また「学習特性アプリ」の利活用は、授業のPDCAサイクルを実践展開することによって、学習目標を達成する授業展開ができ、児童生徒視点に立った授業づくりが可能となった。日々の生活や学習の中で気づき・発見する成長の姿を、教師と保護者が記録していくことで、児童生徒の行動特性を学習特性として可視化でき、更にそのデータを共有することによって、協働作用が誘発され、学校・教師・家庭が共に教育支援活動を行うことができた。

これら2つのアプリを利活用した実践事例から、「児童生徒情報の可視化」「保護者・教師・学校の情報共有」「教育支援情報の一元管理」「データの有効活用」による教育支援の連携強化が得られ、これにより、教育支援連携システムは、学校・教師・保護者をリアルに繋ぎ、チームとしての協働的な教育支援活動を誘発して、教育支援連携の質を向上し、児童生徒の個に応じた指導の充実と生活の質的向上に繋がることがわかった。

これら2つのアプリを含むPERグランドデザイン構

想は、家庭・学校・地域・福祉・医療による協働の教育支援活動を促進し、教育や支援の質の向上と切れ目ない一貫した教育支援の充実を図り、児童生徒の視点に立った、児童生徒一人一人の自立と社会参画に向けた強力なプラットフォームとして期待することができる。

7 今後の課題

今後、家庭の経済状況や地域差、本人の特性等に関わらず、多様な児童生徒の資質・能力を一体的に育成するための個別最適な学びと、社会と繋がる協働的学びを実現するためには、学校は、学校内あるいは学校外の関係で、連携と分担による学校マネジメントを実現することが重要といわれている（中教審答申案の作成に向けた骨子案, 2020, 8月）。更に教師間の適切な役割分担はもとより、スクールカウンセラー等の専門スタッフの活用、コミュニティスクールの導入や地域住民、福祉機関等、学校・家庭・地域による多様性のあるチームによる学校とし、「孤立」した学校から「自立」した学校への変革を実現することが必要であると指摘している。そのためには、学習指導要領に示された教育目標を担保する教育課程を実践展開するために、新たな学校と家庭の教育支援連携システムが求められている。

一方、特別支援教育とは「障害のある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、子供一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの（文部科学省）」と述べている。このことは、児童生徒一人一人の教育的ニーズの把握、適切な指導及び必要な支援を可能にするための総合的一貫した教育支援連携システムの構築が求められ、ICTを利活用した開発、実践することが課題である。

今後は、地域・福祉・医療との支援連携促進のためのミニアプリ共同開発の必要性があり、引き続き開発・研究を進め、PERのグランドデザイン完成に努力していきたいと考えている。

〈参考文献〉

- ・文部科学省, 平成29年4月, 特別支援学校学習指導要領
- ・文部科学省, 2018年8月, 統合型校務支援システムの導入のための手引き
- ・文部科学省, , 令和2年7月, 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議
- ・文部科学省, 令和2年8月, 中教審答申案の作成に向けた骨子（案）
- ・総務省, 令和元年9月, 総務省のPHRに関する取り組み

<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000546637.pdf>

- ・中川宣子・中川あかり, 2019, 生活自立教育支援アプリケーション (LISEアプリ) の開発, 日本特殊教育学会第57回大会論文集, 第57巻
- ・中川宣子, 2019, 学校・家庭間の学習過程情報共有に基づく教師・保護者の教育支援連携プログラムの構築, 日本教育大学協会研究集会研究論文集
- ・NAKAGAWA. Noriko, 2019, IGI Global, Handbook of Research on Software for Gifted and Talented School Activities in K-12 Classrooms, 448 p
- ・武富博文・増田謙太郎編著, 2020年7月, 『新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫』, ジアース教育新社

〈参考資料〉

「デジタル連絡帳アプリ」「学習特性アプリ」の詳細については「特別支援ICT研究会」ホームページ、以下のQRコードから検索可能。



<https://specialsupport-ictlabo.jimdo.com>